



週報

Weekly Report

RI テーマ
奉仕を通じて平和を

2012-2013 年度
国際ロータリー会長 田中作次

国際ロータリー第 2720 地区 **熊本南ロータリークラブ**
Rotary International District 2720 Kumamoto South Rotary Club

例会日 / 毎週月曜日 12:30 ~ 13:30
例会場 / 〒860-8536 熊本市中央区上通町 2-1 ホテル日航熊本内
創立日 / 昭和 33 年 9 月 1 日 (承認 昭和 33 年 11 月 24 日)
会長 / 浅山弘康 幹事 / 漆島典和 クラブ広報委員長 / 吉原コウイチ
www.smate.jp/k-minamirc

第7例会記録(通算第 2535 回)

平成 24(2012)年 8 月 27 日

斉唱 国歌 君が代

ロータリーソング「奉仕の理想」

来訪者紹介

九州中央リハビリテーション学院 院長 児玉公道様
台湾交換留学生 濱田有紗様
濱田広美様

会長報告(浅山弘康君)

8 月 27 日 本年度 7 回目、通算 2535 回目の例会です。本日の来訪者は台北大同ロータリークラブ 交換学生の濱田有紗さんとお母様です。卓話は九州中央リハビリテーション学院 院長 児玉公道先生です。よろしくお願ひいたします。それでは会長報告を申し上げます。新年度に入りましてロータリークラブのスタートとしての行事は終わりました。ご協力ありがとうございました。今日の会長報告はラジオに関するものです。東日本大震災の発生から約 1 年半たち、RKK としましてもラジオ、テレビの総括を行っております。ラジオが災害地で情報源の役割を果たしたことは事実です。宮城県の東北放送からの報告ですが、皆さんはテレビで仙台空港が津波で襲われる映像はご覧になられたと思いますが、津波の襲来で 2,000 人が空港内に取り残されました。空港は電源もなくなった状態で、情報をどのようにして取るかと言うことになり、携帯ラジオを探した結果が空港内で 1 台見つかったとのこと。私共にとっては 1 台しか見つからなかったことに対し、びっくりしました。そのラジオ放送をホワイトボードに書き出し、情報源としたとのことでした。改めて携帯ラジオの普及に再度力をいれなければと思ひ知らされたしだい。なお、今年の 1 月から RKK ラジオはスマートフォンやパソコンで聞ける状態になっております。是非 1 度聞いてください。以上会長報告です。



損保ジャパン吉行支店長の入会を歓迎します。楽しいロータリーライフを！

今日の例会

1. 今日の歌
2. 来訪者紹介
3. 会長・幹事・各委員会報告
4. 新入会員卓話 塩井泰明君

今月・来月の行事

- 9/9 アクトの森清掃@阿蘇
- 9/13・14 RAC 年次大会@大分
- 9/14 ゴルフコンペ@あつまるレーク CC
- 9/24 観月会@ホテル日航

幹事報告(漆島典和君)

1. 熊本南 RAC より
アクトの森清掃活動のご案内
RAC 年次大会ご出席のお願い

例会変更のお知らせ

- 熊本東南 RC ~ 親睦会の為日時・場所変更
[変更前] 8 月 29 日(水) 12:30 ~
[変更後] 8 月 31 日(金) 18:30 ~
[場 所] 熊本駅より「ビール列車」
- 水前寺公園 RC ~ 時間・場所変更
[変更前] 8 月 29 日(水) 12:30 ~
[変更後] 8 月 29 日(水) 10:00 ~
[場 所] 下通り光多制服店前
- 八代南 RC ~ 家族観月会の為場所変更
[日 時] 9 月 4 日(火) 18:30 ~
[場 所] 「葵」
- 熊本西 RC ~ 親睦会の為時間・場所変更
[変更前] 9 月 4 日(火) 12:30 ~
[変更後] 9 月 4 日(火) 18:30 ~
[場 所] 「オーデン」
- 玉名 RC ~ 合同例会の為
[日 時] 9 月 6 日(木) 18:00 ~
[場 所] ホテルしらさぎ

出席報告(現王園敏伸君)			
会員数	出席数	出席率	前々回(1/16) 修正出席率
61名	43名	75.44%	82.46%
出席規定適用免除者 8名		欠席記録免除者 0名	
名誉会員 0名(会員数には含まれません)			

新入会員自己紹介(1回目)



吉行邦夫君
(株)損害保険ジャパン熊本支店
支店長
推薦者 齊藤直信君・赤澤 剛君
誕生日 S36年4月5日 (51歳)
趣味 旅行、食べ歩き、読書

委員会報告

●姉妹クラブ委員会(山本 円君)

台湾交換留学生の感想発表(濱田有紗さん)



初めに、この度私に初めての海外旅行を経験させて下さった、南ロータリークラブの皆様へ、心より感謝申し上げます。

私は台湾でホームステイ先のご家族の方々に、とても優しく接して頂きました。初めての海外旅行で、言葉は通じるか、また、食事は大丈夫なのかと最初は不安もありましたが、いざ行ってみると、美味しい料理や、日本人として日本語で接して下さって、快く受け入れて下さったご家族の方がいらっしゃったので安心して過ごすことが出来ました。私が今回の旅行で楽しかったことは、台北101タワーに登った事です。あまりの高さにビックリしました。食べ物では、小籠包が一番おいしかったです。又、豚の丸焼きにはビックリしましたが、皮の部分がカリカリしていて意外とおいしかったです。今、日本人に対してあまりよく思っていない国がある中で、台湾の方々はとても温かい方でした。これから私はこの経験を活かして、熊本のために、日本のために、そして世界のために、お役にたてる人になりたいと思っています。私は、外国の方、特に日本人を受け入れてくれる、台湾の方々を尊敬します。私たち日本人も、外国の人に目を向けて、外国語や、外国の文化をもっと勉強して、世界の人々と、コミュニケーションがとれるようにならなければいけ

ないと思いました。この度の経験で、私はまた台湾へ行ってみたいと思いました。今度は、故宫博物院や、動物園など今回行けなかったところに是非行ってみたいです。最後になりましたが、ホームステイ先のご家族の方、南ロータリークラブの方々、心より感謝申し上げます。日本と台湾が、いつまでも仲の良い関係でありますように、願いを込めて。

●S.A.A.(赤澤 剛君)
9月の出席調査アンケートご提出のお願い

●社会奉仕委員会(赤澤 剛君)

熊本城マラソンボランティア募集の件

スマイルボックス(坂本研一君)

○浅山弘康君・中川順一君・漆島典和君・古財良一君

本日の卓話者九州中央リハビリテーション学院学院長児玉公道様に心から感謝します。また、損保ジャパン吉行邦夫君の入会を歓迎致します。

○永井富士雄君

本日の卓話者九州中央リハビリテーション学院児玉学院長のご来訪を心より歓迎致します。お話を楽しみにしています。

○玉田光識君・渡邊秀章君

本日卓話を頂く九州中央リハビリテーション学院児玉公道様のご来訪を心より歓迎致します。今年度のプログラム委員会として初めて外部卓話の方をお迎えし、大変緊張しております。「生命の神秘」のお話とても楽しみです。どうぞよろしくお願ひします。

○高宮 宏君

本日の卓話をされる児玉先生は私共の学院の学院長です。皆様どうぞよろしくお願ひ致します。いよいよ来月9月は藤崎宮例大祭が始まります。9月12日夜高校OBの前夜祭が市民会館であります。ご希望の方は招待券がありますので、どうぞお申し出ください。

○濱田定勝君 II

次男の孫が台北大同 RC との短期国際交換留学行事に参加させて頂きお礼のスマイルを致します。孫にとっては初めての海外旅行、ホームステイ等々体験させて頂きこの経験が本人の人格形成に役に立つことを喜んでおります。関係者の皆様ありがとうございました。

○寿崎肇君

明日8月28日は熊本南RCが熊本市の中学生のためにバドミントン大会を創設して29回目になります。熊本南RCで4年後8年後のオリンピックの金メダリストが出るように明日のバドミントン大会に出席し激励してあげようではありませんか。木村会員ご苦労様です。ありがとうございます。

○木村弘訓君

明日 9 時より県立体育館において第 29 回目南ロータリークラブの中学生バドミントン大会が行われます。今年より白川を挟んで東部地区西部地区の 2 地区の大会に分かれて行い、賞状メダルが 2 倍になり南ロータリーの 5 万円が大変ありがたく思います。今年の参加人数が 804 名にて行います。お時間がある人は是非ご参加ください。

○藤木正幸君

国府高校インターアクトクラブが昨日、24 時間テレビのボランティアとして、下通りで募金活動に参加しました。炎天下の中、メンバーの頑張りに感動しました。

○現王園敏伸君・平尾 豊幸君・坂本幸樹君・塩井泰明君・永井富士雄君・井上雄一朗君・井上雅文君・玉田光識君・古財良一君・丸山浩之君・渡邊秀章君・星野誠之君
損保ジャパン吉行支店長の入会を歓迎致します。是非ロータリーでの深い親睦をお願いします。

○赤澤 剛君

吉行君の入会を歓迎してスマイル致します。楽しいロータリーライフを過ごして下さい。

○三角雄介君

損保ジャパン吉行支店長のご入会を歓迎致します。吉行支店長は早稲田大学の先輩であり、仕事でも大変お世話になっております。よろしくをお願いします。

○木村弘訓君・坂本研一君

吉行邦夫君の入会を歓迎してスマイル致します。多彩な芸をお持ちの石田支店長の後、吉行支店長もさぞや多芸の持ち主だと思います。家族会等、みな、期待しております。

外部卓話 (九州中央リハビリテーション学院 学院長 熊本大学名誉教授 児玉 公道氏)



「生命の神秘」

私は、金沢大学医学部を卒業して以来、これまで人体の構造を肉眼的観察して、形の持つ必然性や意味を考察して来ました。人体をおよそ 35 億年の生命の歴史から解き起こしていくという視点に立って、つまり個体発生学と系統

発生学を土台として、地球上に現存する生物、特に脊椎動物の比較形態学的解明を通して、人体構造の成り立ちを解き明かすことを大きなテーマとして研究教育活動をして来ました。地球上の動物の中で、人体ほど多数例をより詳細に解剖されてきた動物はおりません。このように、人体の地図を作ってきた先人の学問的成果に踏まえ、私は人体の歴史・人

体構造の成り立ちや、形態のもつ必然性を明らかにしていく研究に取り組んできました。

学生にも見せるスライドの一つですが、クロサンショウウオの卵です。まるで宇宙の中の星のようにも見えます。今や動物極つまり背中側に神経堤ができ始めるところです。左右の神経堤が癒合して神経管ができ、この段階で脊椎動物の背側と腹側が確定されます。我々の体は「背に腹は代えられない」のです。1 個の受精卵からおよそ 60 数兆個とも言われる細胞によって人体の身体が作られるわけで、器官発生というものは非常にドラステックに進行していきます。

次は同じサンショウウオの日々変化する発生過程を順番に撮ったもので、右上から左下に配列しました。右下の大ききで卵殻を破って幼生となり泳ぎ出します。またちょうど右上の段階になると突然体がグニャと左右に曲るのです。それまでびくともしなかった物体が、突然動きだす瞬間を見た時強い衝撃を受けました。これは生き物なんだという実感は、こういう経験をして始めて掴み取れるのではないかと思います。人体(生物体)は小宇宙といわれますが、まさに螺旋的に開放されている宇宙の中で地球に生命が誕生して 35 億年、脊椎動物が出現して 8 億年、この過程での様々な動物の出現を抜きにヒトの存在も考えられません。そういう歴史を踏まえて人間の体を観ようというのが私の立脚点です。

では脊椎動物の形の変遷は如何なるものなのでしょうか。脊椎動物門・哺乳綱・霊長目・ヒト科ヒト(Homo Sapiens)として進化してきた私たちは、8 億年前の祖先として脊索動物という生物の存在を知らなければなりません。それがナメクジウオ(Amphioxus)です。右側が吻側です。この動物は瀬戸内海や伊勢湾の天然記念物指定地域ではほぼ絶滅に近い状態です。ところが天草には普通に生息して、私も最近まで飼育していました。私が熊本に来てよかったと思っていることの一つです。脊索動物の一つであるナメクジウオは、脊椎動物の前段階として意義を持ち、このような動物を起源として地球上に多種多様な脊椎動物が生れてきたのです。一見なんの役にも立たないように見えるこの動物にもそれなりの存在価値があるわけです。その形は、頭が無く口として咽頭が外に開き消化管の入口を形成しています。背側には脊椎の原基である脊索が軟骨の棒として体軸を成し、更にその背側に神経管があるという極めてシンプルな形をしています。しかしこの形こそ、現存する脊椎動物全てに共通する形であることが解ります。それゆえナメクジウオの形態を脊椎動物の基本的な形、すなわち原形(Prototype)としてとらえ、その後の脊椎動物の様々な形を原形からの変化、すなわち変態(Metamorphosis)として考え理解しようとするわけです。当時の生き物とは異なるとはいえ、8 億年ものあいだ原形のまま生き続けているということは、驚異に値するとともに、生命の神秘を感じないわけにはいきません。

その後魚類が出現することによって、原形から脊椎動物の

胴体の基本形が形造られました。硬骨魚類は地球上のあらゆる水域に適応し、およそ2万種と大繁栄をしている脊椎動物とってよいでしょう。その中でもヒレが薄い条鰭類が現在巾を利かせてはいるものの、進化の流れはこの主流である条鰭類からではなく、現在では全く細々と世代を引き継いでいるシーラカンスや肺魚のような肉鰭類の中から生れたという進化の事実は、我々ヒトの生き方においても何か考えさせられるものを提示しているように思います。それはともかく肉厚の腕を持った魚から両棲類へと変化し、さらには爬虫類的両棲類から爬虫類へと変化をとげ、ついに一生を地上で過ごすことができる脊椎動物が誕生したのです。ただし彼らの四肢は横に出っ張り、胴体は地面に接し、歩行は魚と同じように胴体を左右にくねらせて行うので、Locomotion は依然として胴体が主軸であり四肢は移動の支点の域を出ませんでした。

哺乳類の誕生は、爬虫類が地球上に出現してからそう遠くない時期であろうと、今では考えられています。すなわち爬虫類として大いに繁栄した恐竜が、地球全体を闊歩し始めた頃(約1億9千万年前)には、主流とは成り得なかった別の爬虫類から変化したものと、化石の頭蓋骨の形から考えられています。写真7は大英博物館の自然史博物館に展示されていた哺乳類の祖先と想像される動物です。10cm 足らずの小さなネズミのような動物は、おそらく昼間は恐竜の襲撃を恐れ暗い物かげに隠れ、夜に這い出してきたは昆虫を採食していたと思われます。ジュラ期には恐竜はじめ爬虫類に虐げられていた哺乳類が、今日のような繁栄を遂げるとは、誰が予想したでしょうか。6千5百万年前突如として恐竜が絶滅した時にはすでに、哺乳類の多様な分化は成し遂げられていたようで、決して恐竜が滅びてから種が広がったわけではないようです。当然霊長類(Primate)の仲間も存在し、その中の樹上生活に適応したサルのあるものが、ヒトの祖先であると考えられます。約500万年前、腕渡はできるものの樹上生活者になりきれなかった我々の祖先は、追い立てられるように樹上から草原に押し出されたと考えます。そこは夢に見る桃源郷ではなく、猛獣やヒビがばっこする危険な場所であったと想像されます。しかし樹上生活で獲得した自由な上肢、立体視できる視覚、体軸と顔が直角の構造は、樹上生活者としては落ちこぼれであっても、直立し、腕(手)を使い、ものを観察し、道具を作り、脳を発達させることを可能にしたのです。これによりヒトは地上生活での未知の可能性を探る扉を開くことができたのであり、その結果最も地上に適応したサルとなったのだと考えています。

以上、個体発生と共に脊椎動物の進化の過程として、ヒトの体を見ていかなければならないということです。人体の形について具体的な例を上げるならば、循環器系(心臓)において、1心房1心室から2心房2心室へと変化していく過程は、受精卵からヒトになる個体発生(Ontogeny)の過程であると同時に、魚から哺乳類へと移り変わっていく過程としても見るこ

とができるということです。しかし自然のこの過程は大きな法則に従いながらも、細かなことでは実におおらかさ(柔軟性)を持っていると、肉眼解剖学をやっていると思います。私はこのおおらかさの中から起こる、いろいろな形の成り立ちを統合し、大きな規則性として掴み取っていくことが現代の生命科学の課題であると考えます。

カリエールの「病気の子供」です。母親は病める子供の背と足に”手当”し、子供は母親の頬にそっと”手当”して安堵と温もりを感じ取るのです。この温かさこそヒトの本当の姿であり、生命=医学の根底に通ずるものと信じております。



【例会予定】

9月10日(月) ローターアクト卓話

9月24日(月) 外部卓話 濱田龍郎様

(九州ラーメン党理事長)